

第5回 小学校教育フォーラム

「アクティブ・ラーニングの考えに基づく授業実践講座」

2015年8月29日(土) 10:00～16:10

2015年8月29日(土)に、白梅学園大学において第5回小学校教育フォーラム「アクティブ・ラーニングの考えに基づく授業実践講座」を開催しました。

参加者は小学校教諭が最も多く、そのほか、保育士、学童指導員など49名の参加がありました。講演会では、最新の学習指導要領に関する議論についての情報を無藤先生から講義していただきました。選択講座では、それぞれの教科における「アクティブ・ラーニング」の具体的な授業実践の手法を各教授から講義があり、参加者は配布された資料や作成した教材を、明日からの実践に活かすべく持ち帰られていました。それぞれ有意義な時間になったようです。

当日の内容は以下の流れで行われました。

講演会 (10:00～12:00)

【演題：次の学習指導要領が目指すもの】

白梅学園大学教授 白梅学園大学大学院研究科長
無藤 隆 氏

選択講座

「アクティブ・ラーニングの考え方に基づく授業実践」

第一部 (13:00～14:30)

*①または②どちらか一つ選択

①国語「物語教材を通して、アクティブ・ラーニングを考える」(「ごんぎつね」を例にして)

白梅学園大学教授 増田 修治 氏

②社会「思考力の育成につながるアクティブ・ラーニング」(「新聞づくり」活動の実際)

白梅学園大学特任教授 佐藤 正志 氏

☆第二部 (14:40～16:10) ③か④を選択

③理科「科学的な探究心を育てる理科の授業」
(実習と共に理科の学習について考える。)

白梅学園大学准教授 中林 俊明 氏

④算数「作って使える算数の教材・教具」(児童と一緒に作成し、楽しく学べる教材・教具を実際に作成)

白梅学園大学特任教授 成田 弘子 氏

午前中の講演会は、無藤 隆 氏から「学力の3要素」について第一は、「知識・技能の構造化を進めるべき」、第二は「思考力の高度化、つまり自分の思考についての自覚化を進める」、第三に、「主体的に学ぶ態度は、まず学ぶことへの意欲から始まり、次第に粘り強く取り組み、先の目当てを持って学ぶ意志へと発展する」

「アクティブ・ラーニングとは、それらの3つの間の連続を学習活動の中で活発にして、相互に高め合うようにすることである」というお話でした。

午後の選択講座「アクティブ・ラーニングの考えに基づく授業実践」は第1部は国語と社会、第2部は理科と算数の中から選択し、本大学教員がそれぞれの教科における「アクティブ・ラーニングの授業実践」行いました。

○増田 修治 氏の「国語科におけるアクティブ・ラーニング」は、

①アクティブ・ラーニングは、子ども任せではなく、ものすごく丁寧な積み重ねがあってはじめて成立する手法である。

②活動主義にせず、学びの質の深まりに着眼する。として、「教師の教材への深い読み取り」が必要であり「児童に書き込みなどして、自分の

考えたことや感じたことを自由に書かせ、発表・討論する雰囲気を作る。」「そこから考えられる問題を、グループやクラスで話し合っ解決していく力を付ける。」ことを提言する内容でした。

○佐藤 正志 氏の社会「思考力の育成につながるアクティブ・ラーニング」は、「新聞づくり」活動を通し、児童に次のようなプロセスで学びの力を付けていくという内容でした。

1. 社会を見る…事実を認識することである。
 - ①まず、社会的事象を調べる
(観察・見学・調査・資料の活用 等)
 - ②次に、調べたことをまとめ、表現する
(レポート・作品・発言・報告・発表・討論 等)
2. 社会が分かる…調べた事実を活用すること
 - ①社会的事象の意味や働き、自分や生活との関連について考えること。
 - ②社会的事象に対する自分の考え、思いを表出する。
3. 社会にかかわろうとする…学習して身に付けた知識や能力、態度を活かそうとする。
 - ①その後の学習に生かす。
 - ②生活や社会の向上に生かす。

○中林 俊明 氏の理科「科学的な探究心を育てる理科の授業」では、

- ①理科は問題解決の教科と言われ、様々な実践が各地で展開されている。
- ②日本の理科教育が抱える3つの問題として、露木(2015)の論考を挙げている。
 1. 子どもから「センス・オブ・ワンダーの心」が急速に失われつつあること。
 2. 子どもの自然離れが、ある閾値を過ぎてきたこと。
 3. 問題解決の学習が形骸化もしくは、ほとんど行われなくなってきたこと。
- ③今後の理科教育をどうしていくか。

これを機会に、出される教育政策を前向きにとらえ、指導者は子どもと教えるべき内容と正対し、方法やスキルとしてのいわゆるアクティブ・ラーニングを実習を通し考えていきたい。

○成田 弘子 氏の算数「作って使える算数の教材・教具」では、渡邊恵津子著「こどもといっしょにたのしくさんすう」を資料にして、参加者と実際に教材・教具を作成しながら、活用場面や活用方法を考えていった。

具体例

- ◆あわせて10(10の補数見つけ)
〈用意するもの〉1～9までのカード、5～6組
〈カードの作り方〉
- ◆カルタで遊ぼう…分数トランプ
- ◆カルタで遊ぼう…小数カルタ
- ◆カルタで遊ぼう…小数と分数カルタ
- ◆カルタで遊ぼう…小数・歩合・百分率カルタ
- ◆計算リレーゲーム

(文責 成田 弘子)